



おちかこうみんかんだより

第172号 令和2年11月2日発行

「将棋・囲碁愛好会」参加者募集中

9月27日より将棋・囲碁愛好会が再開されました。毎月2回、第2週と第4週の日曜日、14時から娯楽室で活動しています。現在は小学生の児童からご高齢の方まで、幅広い年代が参加しています。将棋・囲碁に興味がある方、経験者、初心者問わず、どなたでも歓迎しています。11月活動予定は、8日(日)と22日(日)です。



「大規模災害に学ぶ！災害に対する備えは大丈夫ですか？」

10月29日(木)に婦人会及び、公民館の主催により、防災講演会を開催しました。講師には、小値賀町(敷路木島)出身の福田憲一氏(元佐世保防災危機管理局長)をお招きし、近年全国で大型台風や地震などの自然災害が発生しており、日ごろから『防災』について意識を高めるということを目的に、講演していただきました。

初めに、災害状況のビデオを視聴しました。その中で、津波によって家が巻き込まれ、流されていくものを見たときには、参加者から驚きの声が上がっていました。講演会では、その当時の写真やイラスト、実体験のお話をまぜながらの講演会だったのでとても分かりやすく、実際に経験された方だからこそ、言葉の重みがありました。また、災害の種類や、観天望気(猫が顔を洗うと雨など)、大災害からの学んだ教訓などをお話していただきました。最後に、「災害が発生した時には、『まさか!』ではなく、『きたか』と思うように対策をしてほしい」という言葉が印象に残りました。



新しい生活様式で！熟年大学開校

10月30日(金)に熟年大学の開講式及び、第1回講座「備えあれば憂いなし!~もしものための防災学習~」を開催しました。講師には前日に引き続き、福田憲一氏をお招きしました。

防災学習では、小値賀弁をまぜながら、隣・近所付き合いの大切さや災害に備えるために必要なことなどをご講演いただきました。



お知らせ

毎年12月に開催していました「すってくろ広場」は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止いたします。

訂正とお詫び

先日、各世帯に配布いたしました「3世代交流グランドゴルフ」の日程に誤りがありましたので、お詫び申し上げますとともに、次のとおり訂正させていただきます。11月8日(土)→11月8日(日)

肌寒や五十路に近し子の背中
肌寒や人恋しさにペンを取る

百笑

兄が割り分け合い食べるふかし甘諸
毛繕う猫の縁側秋日和

増円

秋日和丸き背中の並び行く
持ちきれぬほどのお土産甘諸堀り

小梅

日が暮れてリンリンの声肌寒し
甘諸みて宴の主役二十五度

利石

いきなりのトビの大影秋の晴
月光を愛でる今夜の肌寒し

一穂

肌寒し靴確かむ風邪薬
ふかしいも湯気に昭和の記憶かな

月歩

古時計刻み果てなく肌寒し
赤土の染みて紅増す島甘諸

値賀助

秋晴れの長期予報に安堵かな
カンコ口と芋で育った俺おまえ

虫砂男

秋晴きしるや紀寿の翁の野辺送り
早速に蒸かしいただく初甘諸

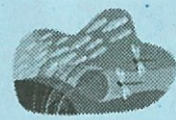
紫紅

何するも老いを楽しむ秋日和
肌寒し夫亡きあとの茶の間かな

香松

嘘のごと秋晴透ける破れ屋根
早採りの甘諸路地市王者なり

松月



~図書館からのご案内~



折り紙作品展 ご来場ありがとうございました

開催初日から台風9号、10号に見舞われ、展示作品が台風被害にあうのでは...と心配しながらの開催となりましたが、たくさんの方に作品を見に来ていただきました。

今回は、新型コロナ対策により「折り紙教室」を開催できなかったため、浦さんご夫妻が、「少しでも折り紙の楽しさを知って貰いたい」とのお気持ちから「動く折り紙」をプレゼントとしてご用意してくださいました。このプレゼントですが、期間中毎日違うものが用意されており、皆勤賞?！と言えるほど、毎日作品展を見に来館して、プレゼントを持って帰る子供たちがいたほどでした! 「折り方を知りたい」といったお尋ねについても、すぐに折り図を準備していただいたり、「鬼滅の刃の作品はないんですか?」との問い合わせがあれば、翌日には主人公の折り紙を折ってきていただくなど、細やかな心配りに皆さん驚かされていました。

場所も取らず、平面から立体へと無限に広がる世界。たった一枚の紙から生み出される作品の素晴らしさを感じることが出来る作品展でした。

今回作品を見逃された方は、12月~1月まで親和銀行展示コーナーにおいて作品展が開催されますので、ぜひ足をお運びください。

パープルリボンツリーを完成させよう! ~女性に対する暴力をなくす運動~

11月12日~25日は、夫・パートナーからの暴力、性犯罪、売買春、ストーカー行為、セクシュアル・ハラスメントなど、「女性に対する暴力をなくす運動」の期間です。

小値賀町立図書館では、役場総務課と連携し、期間中にパープルリボンプロジェクトを実施します。(※パープルリボンは、女性に対する暴力根絶運動のシンボルマークです。)

ご来館の際にはぜひ、ツリーにパープルのリボンを飾り付けて、活動にご参加ください。

関連図書も展示いたします。



遊遊句抄

10月【兼題】

秋晴(あきばれ)、肌寒(はださむ)、甘諸(かんしょ)

賢明さんが懸命に語る小値賀の旧所名所ばなし

第15話(最終話) 小値賀の歴史文化の最大の特徴

本稿では第1話「島の成り立ち」に始まり、神ノ崎遺跡など複数の史跡や神嶋神社などを取り上げながら、計14話に渡り、魅力ある小値賀の歴史文化をお伝えしてきました。最終話となる今回は「小値賀の歴史文化の最大の特徴」とは何であるか、という点について考えます。

現在までに確認されている、最も古い人類活動の痕跡は2万~2万5千年前の後期旧石器時代に求められます。過去の発掘調査で見つかった、剥片尖頭器(はくへんせんとうぎ)と呼ばれる石器が、この時代のもので、木の柄の先に取り付けて、投げ槍として使用する狩猟具です。

その後も縄文、弥生、古墳、古代、中世、近世、近代と各々色彩豊かな時代を経て、現在の私たちの暮らしがあります。このことは、ごく当然のように感じられますが、実はこの点こそが「小値賀の歴史文化の最大の特徴」なのです。

すなわち「小値賀は2万年以上もの長きに渡り、ひと時も人の営みが絶えたことがない島(地域)である。」という点です。

実は我が国のほとんどの地域は気候変動などの影響を受けた生業形態の変化や火山活動、台風や大雨などによる様々な災害の発生によって移転を強られるなど、一度ならず、二度、三度と営みの途絶を経験しています。ところが小値賀にはそれが見られないのです。

もちろん、海に四方を囲まれた島という環境のため生活圏の移動範囲が制限されるという、地理的環境も要因としてあります。しかしながら、それ以上に、いにしえより、我が国と東アジア地域とを結ぶ海上交通の要衝の地であり続けたことや、火山活動によって造られた定位平坦な地形がもたらした陸地、そして遠浅な磯場から得られる豊富な産物が大きな存在としてあります。その他にも、人が暮らすうえで必要不可欠な水も、多い量とは言えませんが、絶えず得ることができます。

つまり、このような好条件が幾重に重なった結果、2万年以上に渡る、超長期間断絶を知らない営みが存続することとなったのです。

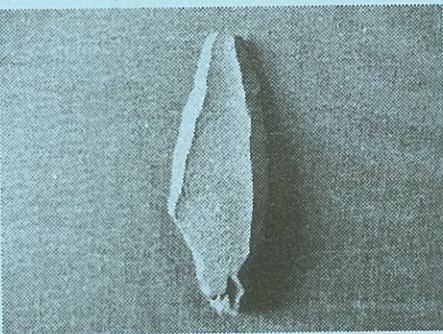
私たち歩いている道は2万年以上も前から、先人たちによって歩き踏み固められたもの。私たちが耕している畑も同様に、石器、木器、鉄器、使役牛、そしてトラクターと道具や方法を変えながらも代々、耕され、受け継がれてきたもの考えると、有難くもあり、また、言葉では表現できないくらい感慨深い気持ちになります。

度重なる私見で恐縮ですが、常々、歴史とは地域の未来を創り出すために必要不可欠な存在であると考えています。歴史深い小値賀の場合は特にそうだと考えています。

悠久の歴史のなかで、先人たちによって受け継がれてきた「営み」という名のバトンは、現代に暮らす私たちの手に託されています。バトンをどのような形で次の世代へと受け継ぐべきか。少子高齢化、人口減少という課題に直面している今だからこそ、一度立ち止まり、先人たちの足跡に目を向けることが大切なのではないでしょうか。

「小値賀の旧所名所ばなし」が少しでもその一助となれば幸いと存じます。

(文責: 平田 賢明)



小値賀で最古の石器剥片尖頭器



小値賀牛の田ほとき(柳地区)

コロナ禍の今こそ、自分史を書いてみませんか・・・

父が6年前に他界しました。息子として最大の後悔は、「父にもっといろいろなことを聞いとけばよかった。」ということです。先祖のこと、親せきのこと、農業のこと、石工のこと、祝い唄のことetc.特に、悔やまれるのは、戦前、戦中、戦後のことを断片的にしか聞いていなかったことです。自分で自分のことを文章にするようなタイプの父ではなかったので、聞き書きして父の記録として残しとけばよかったと思うのです。

さて、ある程度の年齢になった方々の間で、「自分史」を書くことがブームになっています。ひと頃は、「自伝」とか「自叙伝」とかという言葉が一般的でした。しかし、その言葉の裏側には政治家とか実業家とか「偉い人が書くもの」というイメージがありました。苦労を重ね勉学に励み、立身出世して名をあげ財を成し、故郷に錦を飾る・・・といった物語です。ですから、多くの庶民にとっては、「自伝」とか縁のない存在でした。

ところが、最近の「自分史」という言葉を聞くと、なんとなく身近な感じがします。自分で自分の歴史を綴る自分だけの物語。そうです。「自分史」とは、普通のおんつあん、おばさん・・・つまり一般の庶民・大衆が書く伝記なのです。新型コロナウイルスの影響で、自宅に

自分史を書く意義

- ①自分のこれまで生きてきた半生をふりかえることができる。
- ②残りの半生をどう生きるのか・・・自分なりに見通すことができる。
- ③子どもや孫など、後に続く者にメッセージ(伝言)を残すことができる。
- ④後に続く者にとって、自分のルーツに触れることができる。

自分史を書く手順

- ①自分の生育史をふりかえり、年表をつくってみましょう。
誕生、入学、卒業、就職、結婚、子どもや孫の誕生、誰かの死等
- ②年表に、思い出に残る出来事などを書き加えましょう。
当時の写真などを並べてみると、いろいろな記憶が戻ってきます。
- ③年表と出来事をもとに、自分史に書く項目を抜きだしましょう。
例えば、「誕生」「幼稚園時代」「小学校入学」など、自分がぜひ書きたいと思う項目を選びます。
- ④項目ごとに書く内容の柱立てをしましょう。
例えば、「小学校入学」の項目だとしたら→ア、入学式 イ、担任の先生 ウ、友だち エ、先生に叱られたこと など
- ⑤書きたいところから、書いてみましょう。

時代の古い順番に書く必要はありません。書きたいところから、順次書いていくと調子が出てきます。「もう一人の自分」との対話を楽しむつもりで・・・また、誰かと比べるのではなく、自分の歩んできた道を肯定的にふりかえり、自信をもって書きましょう。その時その時、精いっぱい生きてきた日々こそ、大切な自分自身の歴史なのですから・・・

そして、やがていつか、「自分」がこの世の住人でなくなったとき、後に続く者たちが「自分史」を読んで「自分」を偲び、手を合わせてくれることでしょう。

※みなさんの自分史が増えると、小値賀の歴史が豊かになります。

